

いのちの言の葉2009

富山県教育委員会平成21年度いのちのメッセージ発信事業

「いのちのメッセージ」

朝日町立五箇庄小学校

6学年児童 24名

平成22年1月28日実施

【いのちの先生】

水島 香苗 先生

・あわの産婦人科医院 助産師

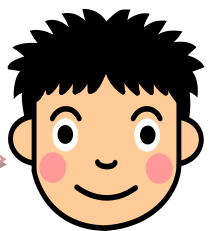
【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の話（水島香苗先生）
 - ① 受精から出産まで
 - ② 受け継がれるいのち
 - ③ 二次性徴と将来の自分
 - ④ 世界の子どもたち(戦争と子ども)
 - ⑤ 出産の喜び
- 3 赤ちゃんとのふれあい
- 4 家族からの手紙
- 5 感想の記入

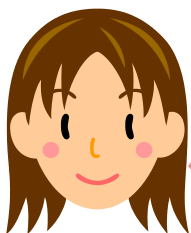


赤ちゃんはすごくかわいかったです。触ってみると、おもちゃみたいにやわらかかったです。

自分は、いのちのすばらしさを忘れずに、いのちを大切に生きていきたいです。いのちは一つしかないから、できるだけ長く生きていきたいです。



水島さんのお話を聞いて、先輩の助産師さんから「気持ちが弱いと助産師の仕事はうまくいかないよ」と言われても、くじけずに助産師さんになったなんてとてもすごいなと思いました。私も助産師になってみたいと思いました。3人のお母さんのメッセージ、お母さんや赤ちゃんの写真を見て、とてもつらそうでしたが、子どものためにながまんして産んだのだと分かりました。私のお母さんやお父さんも、私のために一生懸命がんばってくれたのだと分かりました。私も将来、子どもたちのためにながまされる大人になりたいです。



ぼくは生まれる前に最初1mmもなかったのに、それから12才までよく159cmまで伸びたなと思いました。1才の赤ちゃんを抱いたとき、軽くて小さくて、赤ちゃんの頃の自分もこのように抱かれていたのだなと思いました。ぼくは赤ちゃんの頃、夜泣きしてお母さんに苦勞をかけていたから、今度はお母さんに親孝行をしたいです。ぼくも大人になったら、自分の子どもをちゃんと育てたいと思いました。

